

令和6年第1回

さっぽろ建設産業活性化推進協議会

議 事 録

日 時：2024年9月10日（火）午前9時30分開会
場 所：ホテルモンテレーデルホフ札幌 12階 ルセルナホール

1. 開会挨拶（荻田建設局長）

建設局長の荻田でございます。

開会に当たりまして、一言、ご挨拶をさせていただきます。

まず、本日はお忙しい中、朝早くからこのようにご出席をいただきまして、ありがとうございます。

また、皆様におかれましては、日頃より、札幌市の建設行政に多大なるお力添えを賜りますことに重ねてお礼を申し上げます。

さて、先ほど、司会からも話がありましたが、本日は今年度第1回目の協議会でございます。議題といたしましては、大きく二つございます。

一つ目は、令和6年度の取組に関する情報共有ということで、事務局から内容を説明させていただきます。二つ目は、次期プラン案の最終的な確認をお願いしたいと考えております。

特に、2点目の次期プラン案については、ご案内のとおり、昨年度から約1年半かけ、プラン案を取りまとめるところまでたどり着けました。それまでの間、皆様から様々なご意見をいただきましたことに重ねてお礼を申し上げます。

次期プランのポイントとしましては、何といたっても担い手確保についてです。新卒の学生になかなか入職していただけない中、女性や他分野の方々、あるいは、海外の方々にはいかに入職していただくか、どのように促していくかということで、もちろん皆様の取組に札幌市としていかに効率的な支援ができるかということが一つ肝となっていると考えております。

もう一つは、生産性の向上でございます。こちらにつきましては、後ほど詳しくご説明させていただきますが、ICTの活用をより加速化させていかなければならないと考えているところです。

いずれにしても、建設産業を取り巻く環境は、ご案内の2024年問題や担い手確保の問題など、いろいろ難しい問題がございます。そうした中でも、今後もますます皆様と札幌市が協力しながら仕事を進めていくことが非常に大切であると考えております。

そういった意味では、次期プラン案について、皆様のご協力をいただきながら組立てられたということは非常に意義あることだと考えております。

また、お手元にイラスト入りのコースターを置かせていただきました。これは後ほどお持ち帰りいただければと思うのですが、「SAPPORO 建設 ICT」というロゴマークをプリントしております。このロゴマークは、ICTをいろいろな方々に広く周知していくためのツールとして使うことを考えているものです。具体的には、例えば、ICT施工を行う現場の看板でありますとか、私ども、あるいは、商工会議所などが企画するイベントでこういったロゴマークを使って、建設産業の魅力を発信していきたいと考えているところでございます。

終わりとなりますが、後ほど事務局から説明させていただく次期プラン案について、こ

ちらを本日の議論を経て調整したものを年内に札幌市議会で説明しまして、その後、1月にはパブリックコメント、3月には予定どおり策定、公表という流れで考えているところでございます。

本日もまた幅広い見地から忌憚のないご意見を賜ればと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

以上、簡単ではございますが、開会に当たってのご挨拶とさせていただきます。

今日は、よろしくお願いいたします。

2. 開会挨拶（北海道大学 高野教授）

皆さまおはようございます。

本日は、本年度の取組に係る情報交換と1年半かけて議論してきた次期プランについて、この会議として、最終の取りまとめを行うことになっています。

2024年は、建設業に関わる様々な問題について、ある意味で節目の年になっています。

まず、時間外労働の上限規制の全面適用ということで、建設業にも働き方改革が本格的に導入されました。

さらに「担い手3法」が6月に改正されております。先日、国土交通省の発注問題懇談会で担い手3法に関わる運用方針について議論されました。その中では、不当な安値や短い工期の発注を禁ずるとことや、施工体制台帳の提出をICT化して効率化するとか、非常にたくさんの内容が議論されております。

それから、生産性向上の取組である「i-Construction」についても1.0から2.0にバージョンアップし、生産性を一層高めようということになりました。

さらに、外国人に関する制度についても、実習を目的とした技能実習制度から就労を目的とした育成就労制度に変わるということで、外国人が働きやすい環境を確保したり、将来的には永住を可能とするなど、今まで以上に外国人の方にも働いていただけるように制度が変わりました。

国としても人手不足や生産性向上は非常に大きな課題と考えており、2024年は様々な制度が変更されました。これらの変更は、札幌の建設業においても非常に大きな意味があると思います。

本日は、次期プランについてご議論いただきますが、よりよきプランに向け、忌憚のないご意見を頂戴したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

3. 意見交換（進行：北海道大学 高野教授）

○北海道大学）高野教授

それでは、早速ですが、議事次第を見ていただきます。

議題1が令和6年度を取組ということで、市と業界を取組予定ということでございますので、資料3-1から3-3でございますが、一括してご説明いただいた後、ご質疑を頂戴したいと思います。

では、よろしくお願いいたします。

【議題1】令和6年度を取組について

(1) 市の取組予定

(2) 業界を取組予定

以下の資料について、事務局から説明

- ・資料3-1：令和6年度の市の取組（予定）
- ・資料3-2：週休2日PRポスター案
- ・資料3-3：令和6年度を取組予定に関する各団体への照会結果

○北海道大学) 高野教授

それでは、ただいま資料3-1から3-3までご説明いただきました。

3-3につきましては、各団体からの取組予定ということで、令和5年と6年の内容について、大変細かく情報提供をいただいたところですが、時間の関係でご紹介できなかった面もありますので、ご紹介していただきたい。ぜひ、これについてはお話ししたいということであれば、ここでご披露いただければと思います。

資料3-1から3-3につきましては、ご質問やご意見を頂戴できればと思います。

○(一社)札幌建設業協会 札幌部会

本日も、よろしくお願いいたします。

今、事務局から令和6年度を取組のご案内をいただいたのですが、その中で、助成金制度のお話がありました。年々、いろいろな形で助成金の制度を拡充していただいております、本当に使い勝手もよくて感謝しているところですが、先ほどのご説明の中で、利用実績が減少傾向にあって、中でも大型特殊免許取得に関する費用についてはというお話もあったのですが、以前、協議会でも、発言させていただいた記憶があるのですが、我々、昭和世代が持っている普通免許は、中型の8トンまでの限定解除がついておるのですが、平成19年の6月以降は、その8トンの限定がついていないのですよね、中型の限定がついてなくて、平成生まれの若い社員にとっての普通免許の資格では中型の、例えば、散水車とか、ああいったようなものを動かしたりすることは、実はできなく、恐らく各社でも同様かと思うのですが、中型免許を別途取りに行ってくださいという形で、会社で補助していたところも多いかと思うのですが、そういった措置をしているケースがございます。

費用としては10万円から十二、三万円ぐらいかかると思うのですが、例えば、

より使い勝手をよくして、利用件数をさらに引き上げていくという中において、中型免許に対する、今の若手に対する費用助成がもし可能であれば、今後のプランに反映していただくこともご検討いただければという要望でございます。

○北海道大学) 高野教授

ありがとうございました。

事務局から現時点で回答はありますか。

○事務局

ご意見をありがとうございます。

助成金の制度については、まさに皆さんのニーズを踏まえた形で今後展開していきたいと思っておりますので、いただいた意見も踏まえて検討をしてみたいと思います。

○北海道大学) 高野教授

ほかにいかがですか。

○(一社)北海道舗装事業協会

資料3-2にあります、大変いいポスターをつくっていただきまして、本当にありがとうございます。特に、スイッチで、下のほうに休日に作業をしてバツとなっていて、一企業ではお客様になかなか言いにくいことですので、非常にいいと思います。

私は2点ほど気になったところがあったのですが、スイッチの上のところ、オンとオフをはっきりさせて効率的な職場づくり実現へとなっています。週休2日制の目的は、効率化というよりも、今まで週6日でだらだらと作業していたわけではなく、むしろオフをつくらないと若い人が入ってこないといえますか、若い人が家族や友人と土・日に休みを取って同じ時間を過ごすことが目的で、そのために効率化することだと思っておりますので、若干気になった点です。何かうまい表現があればいいなと思っております、アイデアはないのですが、建設業がただ休みただけだという誤解といえますか、反感を持たれないようないい表現があればなと思ったのが1点です。

もう一点は、裏の男女のほうです。これは考え過ぎかもしれませんが、男女に分かれていて、女子のところに育児休業の話が入っているのですが、何となく男女のバイアスといえますか、偏見のような批判を受けないかと思っております。これは、第三者的に見てくれる人に確認をしていただいたほうがいいと思えました。

○北海道大学) 高野教授

これは、まだ修正等は可能な段階ということによろしいですか。

○事務局

大丈夫です。

まさにご指摘をいただいたとおりにかと思っております。まず、表面について、お話にもありましたとおり、今、建設業が非効率なことをやっているわけではなくて、純粋に休みをしっかりと取るべきだということを伝えるべきだと考えておりますので、左上の文章については、もう少しストレートに表現を改めたいと考えております。

裏面に行きまして、男女の写真があって、結果的に女性の横に育児休業というものがありますので、間違った誤解を招く可能性もあると思いました。ここは純粋に、確かに女性の方が育児休業を利用されるニーズとしてはかなり多いと思えますけれども、特に女性に限定しないために、左上のところに黄色い文字で「女性も働きやすい」と書いてございますけれども、「誰もが働きやすい」という表現に改めるのがいいのかなと考えています。

ありがとうございました。

○北海道大学)高野教授 大変重要なご指摘だったと思います。ありがとうございました。

ほかにかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○北海道大学) 高野教授

特段ないようですので、次の議題2に参りたいと思います。

次は、さっぽろ建設産業活性化プラン2025(案)でございます。

まず、事務局からご説明をお願いします。

【議題2】 さっぽろ建設産業活性化プラン2025(案)について

以下の資料について、事務局から説明

- ・資料4-1：さっぽろ建設産業活性化プラン2025の案(概要)
- ・資料4-2：さっぽろ建設産業活性化プラン2025の案(本編)

○北海道大学) 高野教授

ありがとうございました。

本編ではなくて、資料4-1を中心にご説明いただきました。

どの点でも結構でございますので、ご質疑を頂戴できればと思います。

○札幌市土木事業協会

2025の案の概要の中でICTの関係で、現在、我々が受注する工事の中でもICTの機器を活用しながら施工する工事が増えてきている状況です。今後においてもICTを

活用する工事が増えてくるのかなという中で、将来に向けた体制維持のために、生産性の向上は重要な取組と我々も考えているところです。

このため、必要とされるICT施工導入に関しては、中小企業独自での取組はなかなか難しい状況です。今後も、札幌市主催のICT研修ですね。現在、我々の会でもICT研修を計画している中で、札幌市が主催するICT研修に同行させていただく形で進めているところです。あとは、ICTの導入に関する助成金制度の拡充及び継続が必要と考えているところです。

また、現在検討されている小規模工事におけるICT活用の方法についてですが、各企業が取り組みやすい環境となり、取組の拡大につながるよう、導入コストも含めた対応をお願いしたいと考えているところです。

いずれにしても、ICTを活用することによって業務の効率の部分での短縮を図ることができるとことは我々も重々理解しているところですが、ICTを扱っている業界に行きますと、金額的なものの負担があることによって、我々も多少躊躇している部分もあると思いながら、その辺も札幌市さんとの助成制度の中に組み入れていただくことも含めながら検討していくことが必要になってくると思っております。その辺もぜひご検討をお願いしたいと思っております。

○北海道大学) 高野教授

ありがとうございました。

ICT拡充についてのご要望ということですが、今日は十分に説明できなかったところがあるかと思しますので、ICTについて、どういうところで今回の中に盛り込んでいるか、ご説明をいただけますか。

○事務局

まさにICT、生産性の向上というのは喫緊の課題、特に取り組まなければいけないということは再三説明させていただいておりますし、いろいろな取組が今年からかなり加速しているところです。

特に中小企業におかれましては、新たな技術に取り組むときにハードルがあるかと思えます。初期投資、人材、機材を含めましていろいろなハードルがあることは我々としても把握しておりまして、ICTの助成制度など令和3年に創設しておりますけれども、なかなか利用が増えてこない部分もありますので、どんな形だと取り組みやすいかということを考えながら、研修の数や種類を増やしてきました。

まさにこういった部分を推進していくためには、札幌市行政としても環境整備の支援として何ができるか検討してまいりたいと思っておりますので、今後もいろいろな意見交換をさせていただきながら考えていきたいと思っております。

○北海道大学) 高野教授

ありがとうございました。

発注者さんがどのぐらいの覚悟でICTを導入するかが分かることによって、業界としてもどこまで投資するのかという覚悟を決めていくことになると思いますので、量的にどのような部分までICTを入れておくのかというところを示していただくと、苦しい中でも投資をしていこうということになると思いますので、そういったことも含めてご検討いただければと思います。

ほかにいかがですか。

○(一社)札幌空調衛生工事業協会

25年プランなのですけれども、一番初めに建設産業の役割というものを持ってきていただいて、大変ありがたいと思っています。

話が拡散するかもしれませんが、最近、災害とか、暑い日が続くとか、生活に直接支障のある事柄がすごく増えています。暑さに関しては、秋元市長が去年でしたか、市立の学校を冷房化すると約束されました。直接関係があるのは、我々空調衛生と電気屋の業界ですけれども、できるのだろうかというふうにもものすごく心配しました。

ただ、それについては、去年から札幌市都市局と事前にいろいろ打合せをさせていただきました。どうすればできるのかということを中心に綿密にお話しさせていただきました。そして、結果は、ほぼ発注されて入札が終わって受注は決まっています。今年から来年度にかけて工事を順次やっていくことになります。

これもものすごい障害があったのです。というのは、学校サイドの問題なのです。24年問題に関わって、今までですと、学校の中での工事は放課後にやってくれとか、土・日にやってくれとか、休みの日は学校開放があるからやめてくれとか、非常に仕事のやりにくい環境でした。

今回、市長にもお約束していただいていますけれども、とにかく学校側に協力してもらおうということです。目的は子どもたちのためですから、そういうことを市は理解していただいています。

ただ、工事はまだ始まっていませんし、一体どこまでできるかは分かりませんが、とにかく、そういうお約束をいただいているので何とかできたという状況です。

結局、災害に対する復旧とか、市有施設の更新とか、全てにわたって影響してくると思います。

要するに、人がいなければできないけれども、働く時間は決められていると、これに対して、市民といいますか、国民の理解が全然進んでいないのではないかと、要するに、建設産業の重要性に対して、何かあって初めて何とかしてくれと。やはり準備していれば防げることもいっぱいあるし、一番初めに役割を書いていたのは非常にありがたいのです。ただ、そういう災害や、今後の暑くなる問題とか、いろいろな問題で建設産業のやる

べきことはいっぱいあると。重要なのだということをもっともっと市民に理解していただきたいと、何かあって、困って、何とかしてくれといっても、昔は、我々日曜日とか夜に電話がかかってきても対応していたのです。そういった対応はしないことにしましたから、動いてくれる人がいないと、大分その辺についてはお客様も理解されてきたと思うのですが、そういうことをもっと重要性をアピールしていけば、建設産業というのは魅力のある仕事で、当然、従事者も増えていくのではないかと思います。

私たち50年前にこの職業に就いたのは、いいほうの4Kのうち、休日が多いということだけはありませんでした。給料はよかったですし、当然かっこよかったですからね。その辺は需要と供給のバランスだとは思いますが、一般の人に対するアピールをもっともっとやっていただきたいと思っています。

○北海道大学) 高野教授

ありがとうございました。

能登の地震を見ても、まだまだ解体業者がいなくてできない、お金を用意していても、建て直す用意はできても業界のほうを受けられないということが頻発しているようです。札幌においても、新しく会社のビルを建て直そうと思っても、なかなか引き受けてくれないということで二の足を踏むと。経済社会の循環の源である建設業が弱ってきますと、いろいろなところでブレーキがかかってしまって、社会全体の足かせにならないようにすることは極めて重要だと思いますし、災害になると、そういう話が顕著な状況として表れてくると思いますので、これは本当に肝に銘じて、そういうことをアピールしていくとともに、働き方改革という制約もありますけれども、そういう中で生産性を上げて、ニーズに応じて仕事を提供できるという体制が極めて重要だというご指摘でした。こういうことを前提に置いて、2025のプランを見ていただければと思います。

ほかにいかがですか。

○(一社)札幌建設業協会 札幌部会

今回、2025の次期プランの案を札幌部会の中でも拝見させていただいて、若干の誤字や記載ミス等の意見はあったのですが、このプランに対する意見等はありませんでした。

その中で、今回、担い手確保について、また働き方改革、そして、生産性の向上など、本当に幅広く取組を掲載していただいておりますので、我々建設産業に身を置く者として様々な課題が山積する中、全ての課題に向けて実施していくことができれば、本当に素晴らしい結果が出てくるのではないのかと大変期待しておりますし、発注者である札幌市さんと我々業界とで先生を交えてこういうプランを策定できたということは、本当に大きい一歩かと思っています。

しかしながら、近年、どのようなことが起こるか分からない世界情勢であり、日本の情

勢ですし、近年では新型コロナウイルス感染症などもありました。ウクライナに対するロシアの侵攻などにより物価の高騰や為替の大きな変動など、今、社会情勢、環境が大きく変化していますから、状況に応じた臨機応変な対応を今後も行えますように、このプランについて、パブリックコメントを経て3月に策定以降もいろいろ変化を捉えて、本協議会をぜひ今後とも継続していただいて、札幌市さんと業界との間で、引き続き情報の共有や意見交換などを行い、このプランをよりよいものとするため、互いに知恵を出し合いながら、建設産業がより活性化できるように取り組んでいければということをご期待しております。

○北海道大学) 高野教授

ありがとうございました。

まさにこのプランをつくることで、ある意味、業界の皆さんと札幌市の皆さんが情報共有をする、建設産業に関わる共有ツール、ASPとしてつくったのだということをお考えますと、つくりっ放しではなくて、この後にどういうふうに変更するか、俗な言い方ですけども、PDCAサイクルを回していくということは極めて重要だと思います。

その辺について、事務局はいかがですか。

○事務局

ご意見をありがとうございます。

私どもとしても、プランそのものも非常に大事な方向性だと思いますし、行政と業界の方々と同じ方向を向くという意味で非常に大事なツールだと思っております。そして、同じく、19団体の方々に参加いただいているこの協議会も非常に貴重な場だと思っておりますので、今後も情報共有をしながら、今後もいろいろ社会状況の変化がありますけれども、それらにもしっかりと対応しながら取組を推進してまいりたいと思っております。

○北海道大学) 高野教授

よろしく申し上げます。

プランの案について、表現ぶりとか、言葉遣いとか、文字遣いとか、事務局は一生懸命読み直してチェックしているのですが、どうしても漏れが出てくる場合がございますので、修正すべき、あるいは気になる表現がありましたら、細かい点でも結構でございますので、後から事務局に連絡していただきますと対応させていただきますので、その点もどうぞよろしくお願ひしたいと思います。

ほかはいかがでしょう。

○札幌市除雪事業協会

我々は、除雪を担っている会ですが、我々は作業員として、当然、使命を持ってやって

いますけれども、こういう会とこういうプランがありますので、皆さんは分かっていると思うのですが、さらに役所の方たちも我々と一緒になって必要性を広めていただければ、担い手の確保にもつながってくると思います。

また、最後に災害のことも位置づけられていますけれども、我々は何か起きてから必要な業界になっていきますので、そうではなく、もう少し前向きな感じのイメージアップにつながるものが何かあればいいのかなと思っています。

愚痴になってしまいますけれども、残念ながらなくなってしまう札幌オリンピックのような大きなイベントがあれば、今日ここにおられる団体の方たちがもっと活躍する場があったのではないかと思いますし、もっとアピールする場があったと思います。なくなってしまうものは仕方ないのですが、違う何かをもっと前向きに考えていただければ、この会におられる方たちの使命をアピールできると思いますので、それも一緒に考えていければと思います。

○北海道大学) 高野教授

ありがとうございました。

作業員の方は、夜中に一生懸命除雪して、朝にはびたっと終わられるように作業をされていると、うるさいとか、家の前に雪を残しやがってという苦情がたくさん来てしまう、働けば働くほど苦情が来るということがなるべくないようにしていくことが非常に重要です。市民の皆さんのために除雪しているのだということを知っている人が大半なのでしょうけれども、そうではない方からはちょっとした騒音に対してご批判を受けるということがあります。特に札幌は除雪が大きな課題になりますので、そういうものに対する市民の理解や、除雪の皆さんがどれだけ一生懸命やっているのか、いろいろな技術を駆使してやっているのかということ理解していただくようなことにもぜひ取り組んでいただければということだと思います。

ほかにいかがですか。

(「なし」と発言する者あり)

○北海道大学) 高野教授

それでは、ほかにご意見がないようですので、特段の修正点はないかもしれませんが、また今日の議論を踏まえていただいて、次の庁内調整、パブコメといったステップを踏んでいただければと思います。

それから、庁内調整の結果、あるいは、今日のご意見を踏まえて修正等がある場合にはメール等でご連絡いただきたいと思います。次はパブコメを行うということになりますと思いますが、そこまで皆さんと連絡を取りながら進めさせていただきたいと思います。

それでは、進行を事務局にお返ししたいと思います。お願いします。

以 上